

スローライフへの提言—2



「もったいない」

相馬農業高校
飯館分校3年

菅野紗恵子さん

この前、今月の（平成15年1月号）広報を見ました。その中のスローライフ講座の記事で「ないものねだりから、あるもの探しへの転換」という言葉を目にしました。ないものねだり、…確かに私はないものねだりをしがちです。町のほうに住んでいたら、病院やお店、学校が近くて、電車やバスも通っていて、交通も便利だろうなあと考える

ことも少なくありません。では、あるもの、村にあるものとは何でしょう。その記事には都会にはない素晴らしいものがたくさんあると書いてあります。それは何でしょう。村長さんの新春のあいさつには「ふるさと」や「自分のくらし」、あるいは「人と人とのふれあい」など多くのことに豊かさが感じ取れることになるのではないのでしょうか」とありました。私の場合、両親の仕事の都合もあり、学校への送り迎えなどでは、弟共々、人にお世話になることが多くあります。人と人のつながりというものを、ありがたく、大切なものとして感じております。不便であるからこそ、こういった人と人とのつながりも、より強いのでは

ないかと思っています。これは村の良いところの一つです。

あとはどんなことがあげられるでしょうか。よく学校の新任の先生のあいさつなどで、「美しい自然豊かな」と村のことを言われます。確かに村には、木や草や花がたくさん生えているし、よくそれを見て、きれいだなと思います。でも、もったいないことに、私には道路の脇に捨ててあるごみのほうが、美しい自然よりも目立って見えます。もしかしたら、ごみを捨てる人には美しい自然なんて頭にはないのではないのでしょうか。もし、美しい自然を村の良いところの一つだと考えている人なら、ごみを道路に捨てたりはしないと思います。村に住む私たちにとっ

このコーナーでは「新晋村民のつどい」で行われた第5次総合振興計画

提言、テーマ「もったいない」の内容をご紹介します。

て、自然が豊かなことは当り前のことで、もしかしたら人から言われないと、自然が豊かなんて思わないのかも知れません。あるもの探しは難しい。私はほとんど毎日、村の中にいるから良いところを知っていて、いざあらたまって良いところを言おうとするとなかなか言えません。これこそもったいないことだと思います。

都会を知らない人には、ふるさとにあって都会にないものがわかりません。だからといって私には村の外のことを知る機会がなかったわけではありません。買い物をする村の外でしますし、修学旅行で、中学生の時は沖繩へ、高校では韓国へ行ってきました。しかし私は楽しかったなあと思うぐらいで、

旅行を通して村を考えたわけではありません。村の外へ出たとき、その土地と村を比べて、村の良いところを考えること、それが私には足りないのだから、それができたなら、私の中の村の存在がはつきりしてくると思います。その機会を作るために、沖繩への修学旅行のお金を村で出してくれたのかなあと考える今日この頃。そうであったとしたらもったいないことをしました。すみません。

私はこの3月に高校を卒業しますが、村を出ましたらその時に、村にあるものがしをあらためてしてみるつもりです。